

有明海西南部地区ノリ養殖生産安定対策事業

岩永卓也・三根崇幸

有明海西南部地区のノリ生産安定を図るため、同地区の流況および生態系モデルの構築に必要な植物プランクトンの出現状況等の調査を実施した。

方法

2020年10月から2021年3月にかけて、週1回程度の定期調査を実施した。図1に示す白石沖ブイおよび箱崎沖ブイにおいて、昼間満潮の前後2時間以内に採取した海水を持ち帰った後、*Skeletonema* spp.の細胞数および溶存無機態窒素（DIN）を測定した。

結果

2020年度ノリ漁期の白石沖ブイおよび箱崎沖ブイにおける*Skeletonema* spp.の細胞密度とDINの推移を図2および図3に示した。

白石沖ブイでは、DINは11月9日から12月22日まで概ね10 μ M以上であった。12月28日以降、*Skeletonema* spp.が増加傾向となり、DINは1月10日以降、概ね5 μ M未満で推移した。

一方、箱崎沖ブイのDINでは11月9日から12月22日まで概ね5 μ M以上で推移した。12月28日以降、*Skeletonema* spp.が増加傾向となり、DINは3月5日を除き5 μ M未満で推移した。

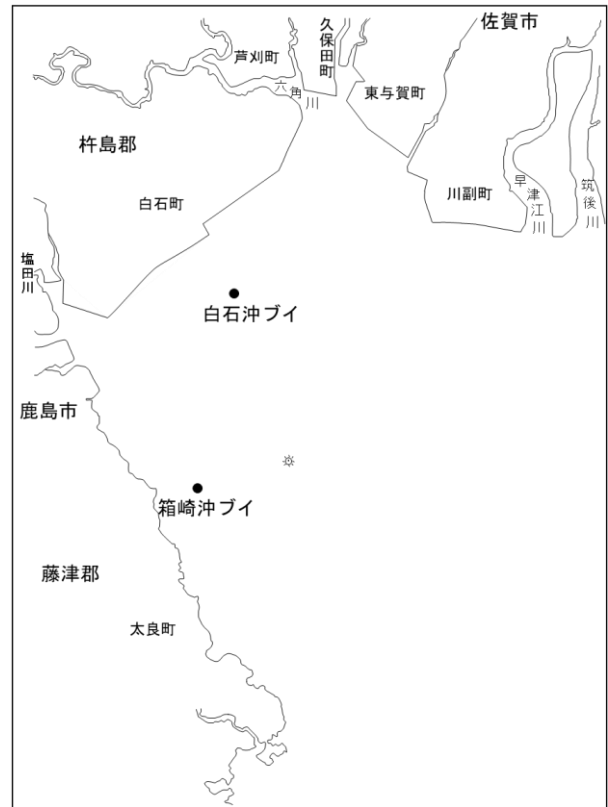


図1 海況調査地点



図2 2020年度ノリ漁期の白石沖ブイにおける*Skeletonema* spp.の細胞密度とDINの推移

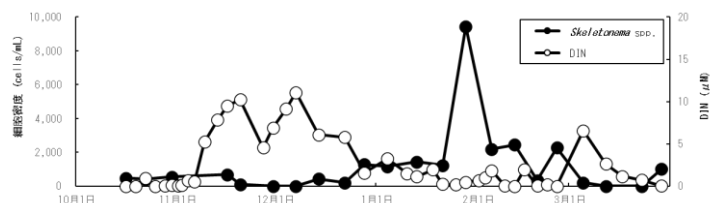


図3 2020年度ノリ漁期の箱崎沖ブイにおける*Skeletonema* spp.の細胞密度とDINの推移